

平成28年度の主な事業報告

社会福祉事業

社会福祉法人釧路百葉福祉会
昭和どんぐりの家保育園

(1) 総括

今年度は主任を2人体制にする。またフリー保育士にパートではなく常勤職員で配置する。主任を未満児、以上児のリーダーとし月に一回リーダー会議を持つことにした。職員の意見をリーダー会議で討議し、問題解決を図れるようにし、園長が現場のことを把握する。また主任も園全体の子どもの動向や情勢について共有出来るようにした。園児は2月を除き120%の入所があった。1歳児が13人と多く、また担任の交代があり落ち着かない様子が続く。しかしそんな中でも2～3年目の若手職員が成長し、ベテランの職員もどんぐりの保育を新人に伝えながら育てている。職員構成としては中堅の職員が少なく若手が多いが着実にどんぐりの保育を継承されてきてはいる。しかしまだ自分の保育を構築することや日々の保育に追われて、職員同士がお互いの保育を認め合い、学び合うまでには至っていない。 保育園の園舎も17年が経過し、修繕が必要になる。玄関アーチの改修、壁紙の貼り換え、0歳児室のスロープ設置、また園全体のガラスをふき、排気口の掃除などを業者に依頼し実施する。毎年、親の会に園庭整備を依頼し、親子遠足の後に畑起しやテラスのペンキ塗り、駐車場の白線を引き等をおこなっている。親の会の活動が保育園や保育士の支えになっている。保護者が園に相談や意見を伝えてくるケースがあり、園長、主任が窓口となって対応するが、生活の格差などが広がり、支援が必要な保護者への支援策も必要になってくる

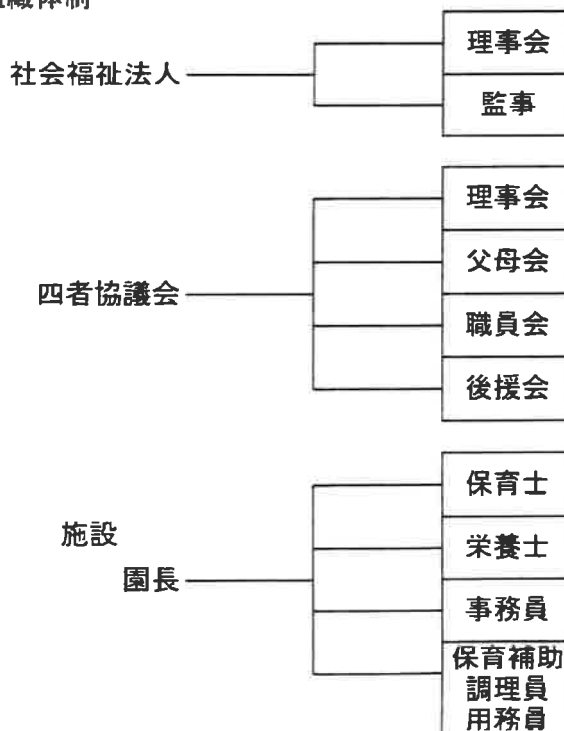
(2) 年間利用者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月
72人	72人	72人	72人	72人	72人
10月	11月	12月	1月	2月	3月
72人	72人	72人	72人	71人	72人

(3) 職種別職員数

園長	保育士	栄養士	事務員	パート
1人	11人	1人	1人	16人

(4) 組織体制



(5) 年間行事計画

別紙のとおり

平成28年度 行事等実施報告書

	行 事		職 員 研 修	災 害	健 康 管 理	衛 生 管 理	職 員 会 議
	内 容	感 想	内 容	内 容	内 容	内 容	内 容
4月	入園式	新入園児16名を含む72名の園児でスタート。年度当初からの1歳児が5名入園し、14名。	(園内)・リズム・実践・ヒヤリハットまとめ 新人研修 講師 柏木理事長 (長谷部、山下)	(別紙)	子どもの身体的特徴の把握 生活習慣形成の状況の把握	救急用品の点検	定例職員 給食会議 リーダー会議
5月	端午の節句 親の会総会 親子遠足 園庭整備	5月になり、子ども達も保育園に慣れ楽しく過ごせるようになる。親子遠足の後、親の会でテラスのペンキ塗り、駐車場のライン曳き、畑おこしを行う。	リズム(以上児、以上児担任職員)		28日 園医健診 戸外遊びの推進 清潔の習慣づけ・手洗いの励行 予防接種確認	環境整備	定例職員・クラス会議 以上児会議 給食会議 リーダー会議
6月	保育園まつり	澤柳栄養士が保育問題研究会全国大会で実践発表をする。	保育研究大会全国大会(東京) (澤柳、金森) 保協主任研修(玉井、酒井)		9日 園医健診 23日 歯科検診		定例職員・クラス会議 未満児会議・給食会議 夏まつり実行委員会
7月	年長キャンプ 夏まつり	年長組のキャンプ。卒園児の保護者も、ボランティアとして参加する。川遊びや天狗との出会い、キャンプファイヤーと一日遊びつくした子ども達であった。	全道合研(玉井、須藤) 私保連実技研修(8h職員) リズム(以上児、以上児担任職員)		夏の病気の予防(あせも、 プール熱、夏季熱)	毛布クリーニング	定例職員・クラス会議 以上児会議 未満児会議・給食会議
8月	七夕 交通安全教室 トランペット演奏会 サマーコンサート	大友 剛さんのコンサート。ピアノ演奏、マジックがあり子ども達も楽しんでた。	保協主任研修(玉井、酒井) 体操教室(以上児、以上児担任)		夏季の疲労に注意し休憩を取らせる。 食中毒の予防		定例職員 運動会実行委員会 給食会議
9月	運動会	雨天のため運動会は体育館で行う。体育館ではあったが子ども達は伸び伸びと競技していた。	リズム(以上児、以上児担任職員)		夏の疲労に回復を図る。 運動遊びを推進する。	非常袋の点検	定例職員・クラス会議 運動会実行委員会 給食会議
10月	以上児クッキング 合同避難訓練 落ち葉ひろい遠足	大津波を想定した商業高校へ避難する訓練を0才を含む全園児、職員で行う。 4、5歳児美原の遊歩道へ落ちひろい遠足に行く。両日ともお天気よく楽しむことが出来た。	道東三地区合同園長会(金森) 釧路市保育協議会(8H職員) 保問研全道大会(金森・本多・澤柳) 私保連研修(8H職員) 経営懇主任研修(酒井)		6日 園医健診 衣服の調節(薄着の励行)		定例職員・クラス会議 未満児会議・給食会議 運動会実行委員会(反省)
11月	やきいも大会 消防自衛団交流	地域の方や治水の子ども達も多数参加し、みんなで焼き芋を食べ、秋の一日を楽しむことが出来た。	私保連研修(8H職員) ワーク(金森) リズム(以上児、以上児担任職員)		ノロウィルス、インフルエンザの対応について確認する。		職員会議・クラス会議 以上児会議・給食会議 おたのしみ会実行委員会
12月	おたのしみ会 もちつき 信金の展示 クリスマス会	未満児はわらべうたや触れ合い遊びで日頃の様子を、3、4歳はごっこで遊んでいる姿を保護者に見てもらえた。年長は直前に水疱瘡が発生し、全員揃ったのが当日だが子ども達が結束し演ずることが出来た。			インフルエンザ予防接種 職員健診・腰痛検査	大掃除	定例職員 未満児会議 給食会議
1月	お正月遊び 交通安全教室	お正月遊びは羽子板や竹とんぼ福笑いの伝承遊びで楽しんだ	療育(酒井、相馬) リズム(以上児、以上児担任職員) 園内主任研修(金森、玉井、酒井)		インフルエンザの登園基準提示 急性胃腸炎が流行る。ピューラックスで消毒。		定例職員 以上児会議・給食会議 クラス会議・給食会議
2月	節分 劇団風の子観劇 SL遠足	年長児がSLに乗り増路まで行く。今年はSLではなくディーゼルでの牽引であったがたくさん動物と出会い、年長にとって良い思い出になった。					定例職員 卒園式実行委員会 クラス会議・給食会議
3月	ひなまつり 卒園式 お別れ進級会	大勢の人の前に出ると動きが固まってしまう子どもも含めてどのような卒園式にするのか職員で話し、納得できる卒園式を行うことが出来た。	会計・実務研修(菊地) リズム(以上児、以上児担任職員) 絵画研修(8h職員)			お部屋の引っ越し	定例職員 新年度に向けて8H会議 給食会議

避難訓練計画・実施表

昭和どんぐりの家保育園

平成28年度

計画		実施				計画		実施					
月	訓練内容	実施日	避難場所	訓練内容	訓練参加者	反省	月	訓練内容	実施日	避難場所	訓練内容	訓練参加者	反省
4月	お話 火災地震避難訓練 おかしの約束 保育士	21日	ホール	おかしの約束の実演 火災報知機の音を 聞く。 年長がホールで、地震 避難時のお手本を見 せる。その後3クラスで 実際に訓練をする。	園児37名 職員 7名	おかしの約束は実演し 何度も子ども達と確認を したので、わかりやすか ったようだ。年長のお 手本を見て増、くじらの 子ども達も上手に先生の 通りに集まっていた。	10月	夕方降園時 地震避難訓練	31日	保育室及び ホール	職員が手薄になる夕方の 時間帯に地震の避難訓練 を実施する。職員にも避難 訓練を知らせずに抜き打ち で行う。	園児 50名 職員 10名	子ども達や職員にとっては突 然の訓練であったが、「地震 だから避難して」の声に素早く 反応してホールの真ん中に集 まり避難する。未満児も戸を あけて保育の周りに集合し上 手に避難できていた。
5月	火災避難訓練 消火訓練	19日	ホール及び 園庭	年長組が火災避難訓練の お手本になり、お・か・し の約束の実践をする。その後 以上児全員で、再度おさ らいの訓練をする。	園児 36名 職員 8名	年長組はみんなのまえでお・ か・しの約束の確認をする と覚えていて、その後のお手本 も落ち着いて行動していた。 全員で再度避難訓練をしたと きも、みんな慌てず上手に避 難することが出来ていた。	11月	総合避難訓練 (火災、消火) 消防署員立ち合い)	12月 5日	保育室及び 園庭	・給食室より出火 通報避難訓練を行う。 ・消防署員方から訓練 について指導していただく ・中央防災の指導を基に 消火器の使い方を知る。 ・消防署の役割を知る	園児 66名 職員 21名	未満児は園庭で遊んでいた。 クラスにいた以上児は「火事 だよ」の呼びかけにスムーズ に園庭に避難する。調理員が 全員消火器の実地指導を受 けることが出来た。
6月	降園時 地震避難訓練	24日	保育室及び 園庭	早番の保育士退勤後 に地震が発生するこ とを想定した訓練を実施。 未満児は保育士室、 以上児は保育資質と園 庭で遊んでいる時に 地震が発生する。	園児 40人 職員 9人	未満児は早すぎで過ぎてい たが、地震発生時の声掛けと同 時に避難経路を確認し、保育 士の周りに素早く集まる。以 上児もすぐ机の下に隠れ、園 庭で遊んでいた子ども保育士 の声掛けですぐ集まる。	12月	朝、登園児 地震避難訓練	12月 22日	保育室	体制が手薄になる朝の時 間帯に地震が発生する。未 満児は朝のおやつの後、 以上児はホールの片づけ の後訓練を実施。	園児 68名 職員 12名	以上児の子ども達にはあらか じめ訓練だと伝えていたの で、スムーズに避難する。未 満児の子ども達は何が起きた のかと戸惑う様子は見られ たが泣く子はいなかった。人 数も確認し、避難経路の確保 も出来ていた。
7月	地震避難訓練	21日	園庭 手つなぎ公園 商業高校	45歳児は散歩中、1、2、3 歳児は園庭で遊んでいる 時に大きな地震が発生、そ の後大津波警報が発令され て、商業高校玄関前まで まで避難する。	園児 55名 12分 職員15名	10時に訓練を開始するが、散 歩中のクラスの連絡が遅れ る。揺れを1分、大津波警報 が出るまでを3分ぐらいと想定 したが園庭で保育士の周りに いた子どもを待たせているの が大変だった。1歳児は全員 散歩車に乗り、2歳児は歩き おんぶで避難。	1月	不審者防御訓練	1月 19日	ホール	警備をお願いしている アルソックに入れ依頼し 不審者防御訓練を 行い、刺す又の使い方 を習う。 併せて、防災マニュアル についても確認する。	職員 14名	昨年は主担の職員で訓練をし たが、今年は8H全職員で行 う。お腹の丹田に力を入れる ことで肩を押されても倒れな いことや、また刺す又の正し い使い方を実践で学ぶ。
8月	火災避難訓練	25日	園庭	給食室から出火。調理員が 事務室への知らせと同時に 非常ベルを鳴らす。 各お部屋への避難をよう 伝え、園庭への避難を 開始する。業山附近で 全員集まり完了する。	園児 58人 6分 職員 12人	予告なく非常ベルを鳴らした ので、子どもたちは驚いてい たが落ち着いて避難してい た。お・か・しの約束を守り行 動できていた。1歳児室で窓 を開け忘れていた。また事務 室からリュックの持ち出しを 忘れる。	2月	地震避難訓練 火災避難訓練	2月 24日	園庭	地震から火事が発生 する。冬場、園庭に 避難するのにどのく らい時間がかかるの か、計ってみる。	園児 67名 職員 19名	地震発生から解除、火災 発生避難まで11分で完了 する。冬場なのでつなぎ などを着ることを想定して も早く避難できた。しかし つなぎを着た0歳児2人を 抱っこするとずり落ちてし まう可能性があるため、 おんぶした方がよい。
9月	地震避難訓練 大津波を想定した 商業高校との 合同訓練	10月3日	園庭 商業高校	震度6の地震及び大津波を 想定し、園児と全職員を商 業高校まで避難させる訓練 を行う。	園児 69名 地震避難 3分 津波避難 12分 職員 25名	反省を生かした打ち合わせを 丁寧にしていたので、昨年 に比べると混乱なく避難を 完了することが出来た。し かし、避難を想定した人員 配置や準備をしていたの で、実際に起きた時に混 乱などような避難訓練も 必要だと感じた。	3月	まとめ 地震避難訓練	3月 16日	保育室及び ホール	2時46分に地震発生。 午睡直後なので、 まだ目覚めていない 子もいる中で、保育士が 素早く避難させる。	園児 66名 職員 15名	避難訓練に慣れてきたの か、保育士も子ども達も 冷静に対応し避難するこ とが出来ていた。しかし、 本当の災害時には予測し なことがおこるので、よ り一層の冷静さなどな時 にも命を最優先した避難 が必要になる。

昭和どんぐりの家保育園 保育園の自己評価表

評価項目	内容	自己評価・反省
保育課程	ア) 保育所の保育の方針や目標に基づき、子どもの発達を踏まえ、ねらい及び内容が保育所生活の全体を通して、総合的に展開されるようつくりされているか。	年度初めの職員会議で、園目標や保育課程について確認している。また、実践を討議する中で振り返りや自己評価を行い、次年度の年間カリキュラムに反映させている。
	イ) 地域の実態、子どもや家庭の状況、保育時間などを考慮し、子どもの育ちに関する長期的見通しを持って、適切に編成されているか。	新興住宅街のフルタイムで働く保護者が多く、長時間保育の児童が多い実態を考慮し、朝夕保育士の配置を手厚くしている。
	ウ) 子どもの生活の連続性や発達の連続性に留意し、創意工夫して保育できるように編成されているか。	保護者と子どもの生活の状況や発達を考慮しながら保育計画を組み立て、保育できるように編成している。
指導計画	ア) 保育課程に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成して、保育が適切に展開されていたか。	職員会議で討議、確認した園目標と保育課程を年間カリキュラムに反映させ、それに基づいて月案、週案、日案を立てている。未満児会議、以上児会議で各年齢ごとの発達やカリキュラム、個人の様子を検討し、見直しを持って保育が展開できるようにしていた。
	イ) 3歳未満児については、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等の即して、個別の計画を作成しているか。	成育歴は保健記録票に記載し、0歳児は個人カリキュラムを作成している。1、2歳児はカリキュラムと個人の様子を毎月まとめ自己評価し、指導計画をたてている。
	ウ) 長時間にわたる保育については、心身の状態に十分配慮して、保育の内容や方法、職員の協力体制、家庭との連携等配慮し保育をしたか。	朝夕の保育士の体制を手厚くし、クラスで安心して過ごせるようにする。延長保育が必要な児童についてはゆったり過ごせるよう配慮している。家庭とは連絡ノートでその日の体調や様子などを共有している。
子どもの健康支援	ア) 保健計画を作成し、職員が、一人ひとりの健康状態を適切に把握しているか。	年度初めの職員会議で保健計画を検討し、児童一人一人の健康状態やアレルギーについても確認している。
	イ) 子どもの心身の健康状態や疾病等の把握のために、嘱託医等により定期的に健康診断を行い、その結果を記録しているか。	園医健診を年に2回、歯科検診を年に1回実施し、当日休んだ児童については後日受診し、未受診がないようにしている。結果については保健記録票に記載している。
	ウ) 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医やかかりつけ医と相談し、適切な処置を行っているか。	発熱や体調不良がある場合、保護者に適時連絡をしている。また保育園での怪我をしたときには必ず保護者に連絡をし、許可を得て受診している。感染症が発生した場合には嘱託医と相談してアドバイスを受けている。
食育	エ) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、協力を求めているか。	感染症対策マニュアルを各クラスに配布し、年度初めにも読み合わせをして職員で確認している。玄関にアルコールを置き登園時に保護者、児童に消毒をしてもらう。週に1回ビュースペースでクラスの消毒をし、感染症が出た場合は広がらないように嘱託医と相談してアドバイスを受けている。
	ア) 健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標としているか。	完全給食を実施し、戸外遊びを充実させ、温かい食事を皆で楽しく食べることを大切にしている。また、畑の作物を育てることで食べ物を作る楽しさを体験し、給食ノートを通じて作る人の思いを学び、食育につなげてきた。また、栄養教諭による栄養指導、鮭の解体を通して命を頂いていることを学ぶ。保護者向けには、春と秋に給食試食会で子ども達とおなじ給食を食べてもらい、薄味の味付け、盛り付けなどを学んでもらう。
	イ) 子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食にかかわる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しんでいるか。	0歳児は管理栄養士の指導の下、月齢に応じた離乳食を提供している。完全給食を実施し、週給食を提供している。
小学校との連携	ウ) 乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われているか。	アレルギーを持つ児童には個別に対応し、給食がないよう給食室と連携している。嫌いなものについては食べられる種類はなるべく無理強いはしない。
	エ) 食物アレルギー、障害のある子どもなど、心身の状態に応じ、適切に対応しているか。	入学する際には保育要録を各学校に提出し、一人一人の子どもについては保育園から小学校へ丁寧な引継ぎをしている。支援が必要な子についてはより個別に引継ぎをしている。今年度はマリモによる引継ぎが出来なかったため来年度の課題になる。
	ア) 子どもに関する情報を共有にして、保育所に入所している子どもの就学に際し、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されているか。	保育をする上で大切な柱の一つとらえ日々実践している。
保護者に対する支援	イ) 保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有出来ているか。	年に2回の懇談会の中で子どもたちの成長を伝え喜びを共有できるようにしている。また、保護者同士の交流も深められるようにテーマを決めた話し合いや悩んでいることを伝えてもらい支援につなげるようにしている。また、支援が必要な保護者には個別に面談を対応している。
	ウ) 一人一人の保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮して、保護者の養育力の向上に資するよう適切に支援しているか。	クラスだよりを通じてクラス全体のことを伝え、連絡ノートでは個々の子どもの様子を丁寧に伝えている。送迎時に子どもの様子を伝え、子育てに関する相談にもきめ細かく対応している。
	エ) 子育て等の関する相談や、助言にあたっては、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を培っているか。	
	オ) 連絡ノートやおたより等で、子どもの状態を伝えているか。	
職員の資質の向上	ア) 子どもの保育及び保護者に対する保育の指導が適切に行われるように、保育所内外の研修を通じて、必要な知識及び技術の習得がなされているか。	日誌で振り返りを行い、課題を明確にし保育に生かしている。栄養士が全国保問研で実践発表を行い評価される。私保連の研修や日保協の研修にも積極的に参加し子どもの発達や、障害児保育、保護者支援について研修する。一年を通してリズムや体育の講師に来ていただき子どもと一緒に実践しながら学ぶ。園内研修では新人研修と共に自分たちが何を大切に保育してきたかを実践でだし、学び合うことが出来た。
	イ) 職員一人一人が主体的に学ぶとともに、他の職員や地域の関係機関等、様々な人や場との関わりの中で共に学び合うことで、保育所の活性化を図っているか。	
施設長の責務	ア) 保育所の役割や社会的責任を遂行するために、その専門性の向上に努めているか。	月に1回リーダー会議を持ち、園内のことについて協議する。高校の評議委員になり保育園の役割を伝えている。しかし、町内会との繋がりがまだないので来年度の課題になる。年に1回全職員と個別面接を行うが、その中で個人の来年度の明確にするところまで話し合われていない。
	イ) 職員が、保育所の様々な課題について共通理解を深め、協力して改善に努めることが出来る体制を作っているか。	

平成28年度の主な事業報告

社会福祉法人 釧路百葉福祉会
治水どんぐりの家保育園

社会福祉事業

(1) 総括

今年度は新しい事業を3つスタートさせる事ができた。

①障害児保育が認められ、障害児の判定を受けた園児も転園することなく、同じ仲間関係の中で保育ができる事となった。

②10月から0歳児保育がスタートした。0・1歳児のニーズは高く、12名の枠はいっぱいである。

③完全給食が始まり、給食の献立も充実し、子どもはもちろん保護者からも喜ばれている。

・その他 クラス役員が中心となって親の会が発足し、共に子どもにとっていいことを考えあう素地ができた。保護者主導でミニ秋まつりも実施された。

事業のスタートに当たっては、増築等のために積み立てを取り崩したが、長期的には必要な投資である事を理事会で議論しながら進めることができた。事業の展開に伴い新しい職員も増えたので、保育理念を一致させながら、しっかりと保育を行なっていきたい。

(2) 年間利用者数

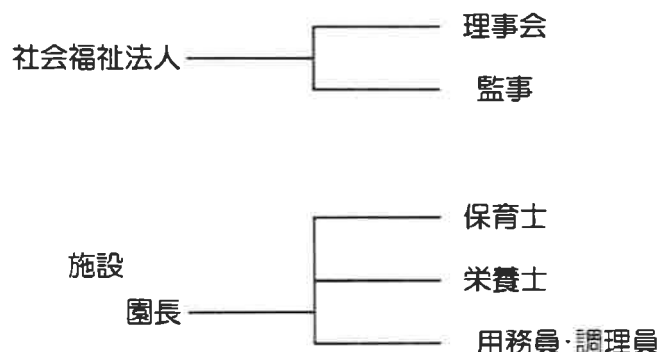
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
園児数	52人	52人	51人	51人	53人	56人
一時保育	11人	4人	17人	22人	23人	23人

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園児数	65人	67人	68人	68人	68人	68人
一時保育	6人	11人	11人	8人	6人	35人

(3) 職種別職員数 (3月末日現在)

園長	保育士	栄養士	事務員	パート
1人	9人	1人	0人	16人

(4) 組織体制



(5) 年間行事報告

別紙のとおり

28年度 行事等実施報告書

治水どんぐりの家保育園

	行事		職員研修	災害	健康管理	衛生管理	職員会議
	内容	評価	内容	内容	内容	内容	内容
4月	入園式 みそ作り 保護者懇談会	保護者懇談会で、0歳児保育の開始と完全給食の実施について説明、同意を得た。兄弟で入所できる事を期待する保護者の声も聞かれた。保護者が安心して仕事を続けられる保育園でありたい。	新人研修(青木・小坂橋・石田) 園内研修(8H職員)	(別紙)	全園児の健康・アレルギーの確認 予防接種実施状況調査 身体測定	救急用品の整備 防災用品確認	定例職員会議 4・5歳児カリキュラム会議 給食会議
5月	端午の節句 保育参観・給食試食会	平日の参観だが保護者のニーズは高く、親子で遊びを楽しむことが出来た。今年も試食会を行い、栄養士が食についてアドバイスをしない好評であった。	集団づくり学習会(7名) リズムとうた(12名) わらべうた(11名)		身体測定	環境整備	定例職員会議・パート職員会議 2・3歳児カリキュラム会議 給食会議 ケース会議
6月	保育園まつり ミニ運動会 親子バス遠足	親子で動物園を楽しむ事ができた。職員は家庭に配慮しながら関わっているが、全体的な交流を求める声もあり、次年度の課題。ミニ運動会は、気温が低く、室内での取り組みとなったが、園全体での運動会ごっこという位置づけで楽しめている。	保協主任研修(畠山) 保育協議会研修・施設見学(一美・北構) 経営懇(北構) 絵画(弘美・石田)		歯科検診 身体測定	布団干し	定例職員会議 4・5歳児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議
7月	おとまり会 交通安全教室 もちまき	5月から増築工事が始まり、その過程を見てきた子ども達。工事にかかわった人に感謝し、子ども達にはもちひろいの体験をさせたいと思い、建前を行った。今はあまり体験できない文化を体験する事が出来た。研修では、図書館のこぶし座へ職員を派遣する事ができ、実技だけでなく座の思いも学んできてくれたことは、プラスとなった。	リズムとうた(13名) わらべうた(11名) 全道合研(石田・小坂橋) こぶし座研修(弘美・勝山)		身体測定 園児健診	食中毒の予防 布団干し	定例職員会議 2・3歳児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議
8月	七夕 大友剛さんコンサート	3回目となる大友さんのコンサート。子どもたちの期待も高く、演者と子どもたちが気持ちを通わせて楽しめる時間であった。夕方の演奏だった為、児童館にも呼びかけて参加してもらうことが出来、地域ともつながることができた。	保協主任研修(畠山)		身体測定	布団干し 食中毒の予防	定例職員会議・パート職員会議 4・5歳児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議 運動会実行委員会
9月	運動会 二本松はじめさんのつながりあそび・うた ミニ秋祭り(親の会)	親の会が発足し、保護者主導で秋祭りが行われた。各家庭を配慮し、安価で緑日を楽しめるよう、保護者が手づくりでゲームなどを作り、温かな催しとなった。二本松さんとの出会いもあり、ふれあい、つながることの心地よさを遊びを通して学んだ。	リズムとうた(14名) わらべうた(5名) 教育合同研究会(実践・勝山)		身体測定	環境整備	定例職員会議 2・3歳児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議 運動会実行委員会
10月	入園の集い 七五三 落ち葉拾い遠足 食育(年長)	0・1歳児保育スタート。全園児で入園の集いを行い歓迎した。育児休暇中の入園の家庭が多く、母子でゆっくりと園に慣れていくことができた。0・1が同室という点では環境を工夫しながら保育をする事が大切であり、試行錯誤の半年だった。	3地区合同園長研修会(北構) わらべうた(4名) 社事大公開セミナー(実践・北構) 保問研集会(実践・阿部 青木)		身体測定	避難用備品の点検 室内の換気・湿度の管理	定例職員会議 パート職員会議 以上児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議 おたのしみ会実行委員会
11月	焼いも交流 おたのしみ会	今年も昭和で焼きいも交流ができ、秋の風物を楽しむ事ができた。また、親の会ができ、おたのしみ会では保護者が率先して出し物を考えてくれ、温かい会となった。	私保連研修(8H職員) リズムとうた(14名) 虐待防止(北構・阿部)		身体測定	ノロウイルスについて処置の確認 室内の換気・湿度の管理 手洗い・うがいの指導	定例職員会議 パート職員会議 未満児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議
12月	クリスマス会 劇団風の子公演	保育園から、子ども達へのクリスマスプレゼントとして劇団の公演を行っている。回を重ね、参加者も増え、素敵な文化を共有することができた。クリスマス会では、ご近所のサクセス奏者の方に演奏をしていただき、生の音楽に触れる事が出来た。	わらべうた(12名) 幼・保・小連携(北構・畠山・青木・弘美・勝山・石田・古川)		インフルエンザの登園基準提示・予防接種・罹患状況確認 職員健診・腰痛検査	大掃除 室内の換気・湿度の管理	定例職員会議 パート職員会議 以上児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議
1月	お正月あそび 交通安全教室	全国的にノロウイルスの集団感染が報道され、理事会でも餅つきについて懸念する声が上がった。職員で検討をし、今年度については行わない事を確認した。しかし、大切に伝えたい文化でもあるので、次年度からは、内容や時期を検討し、実施する方向で進めたい。	主任研修(北構 畠山) リズムとうた(14名) 発達支援(北構・阿部・古川) 救命講習(青木・勝山)		身体測定 園児健診	室内の換気・湿度の管理	定例職員会議 パート職員会議 未満児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議
2月	節分 一日入学 SL遠足 クラス懇談会	ノロウイルスの集団感染で、3日の節分は取りやめる事となった。集会を開いて、手洗いの方法を実演し伝えた。節分に向けて、年長児は作戦を立て鬼との対決の準備をしてきていたので、終息してから改めて豆まきを行い、鬼と対決し、福を呼ぶことができた。			身体測定	室内の換気・湿度の管理 ノロウイルスの処置について改善 手洗い・うがいの指導	定例職員会議 パート職員会議 以上児カリキュラム会議 給食会議 クラス・ケース会議 卒園式実行委員会
3月	ひなまつり 卒園式 お別れ進級会	石窪先生や牧子先生はじめ、たくさんの方との関わりの中で、自己肯定観が育ち、子どもたちの内側から溢れる意欲に感動をもらった卒園式だった。子どもの育ちを急がなくても時期が来れば必ず育つということを、職員で実感できた。	リズムとうた(14名)		健康状態の引継ぎ 身体測定 年長児予防接種の確認	大掃除 室内の換気・湿度の管理	定例職員会議 給食会議 新年度に向けての会議

避難訓練計画・実施表

平成28年度

計画		実施				計画		実施					
月	訓練内容	実施日	避難場所	訓練内容	訓練参加者	反省	月	訓練内容	実施日	避難場所	訓練内容	訓練参加者	反省
4	お話 「お・か・し・も」 の約束	28日	ホール	「お・か・し・も」の約束と緊急の際には先生の側に集まる訓練をした。最後に、年長児に避難のお手本を見せてもらった。	園児 48名 職員 12名 計 60名	年度初めではあるが、どのクラスも担任の側に集まることは上手にできていた。年長児はしっかりと訓練を自覚して避難のお手本を見せてくれた。非常ベルを鳴らす訓練ができないので、検討が必要。	10	総合避難訓練	21日	治水公園	給食室より出火。非常ベルの音を聞いて各クラスから避難をした。新しい通報システムで、消防への通報訓練も行った。終了後、消防士さんから防災服や消防車の説明を受けた。	園児 62名 職員 18名 計 80名	環境の変化が苦手な子のために、前日にクラスで滑り台からの訓練を行っていた。そのため、当日はバニックにならず落ち着いて避難をすることができ、訓練後の消防車見学も楽しみ、防火服の重さも体感できた。
5	火災避難訓練 通報訓練	27日	治水公園	火災の際の避難方法の確認を目的として行なった。特にちゅうりっぷ組は2階になって初めての避難なので、クラス内で避難方法を丁寧に伝えてから、訓練を行なった。	園児 47名 職員 12名 計 59名	事前に職員の動きを確認していたので、職員間の連携は取れていた。年長は訓練の自覚ができていたが、2階は避難用滑り台からの避難が「楽しかった」という感想が聞かれたので、避難用具を見せて、避難訓練の意図を伝えた。	11	地震避難訓練	17日	治水公園	行事が近いため、予定を変更し、午睡後の地震を想定し訓練を行った。以上児は布団の下にもぐり体を守り、未満児は、職員が子どもを囲んで安全を確保した。	園児 60名 職員 12名 計 72名	午睡後すぐの訓練だったが、以上児は上手に身を守ることができていた。0歳児は、状況もわからないので泣く子もいたが、大人の動きの確認は出来、良かったのではないかと思う。
6	地震・火災避難訓練 消火訓練	24日	治水公園	各部屋で地震訓練を行なった後、火災が発生したと想定し、治水公園へ避難した。	園児 43名 職員 13名 計 56名	先月火災訓練を行ったので、地震からの火災訓練でも、スムーズに治水公園まで避難をすることができた。	12	火災避難訓練 消火訓練	16日	治水公園	冬場の火災を想定しての訓練を行った。2階のクラス・つぼみの対応確認に重点を置いた訓練とした。	園児 59名 職員 19名 計 78名	ホールからの避難は、2クラスが重なり避難し子どもも不安になっていた。さらには身支度が済んだら、ひまわりから避難するよう改善する。教員では、子ども達に日頃から自分で身支度ができる様な生活をしていく事を伝えた。
7	地震・津波避難訓練 (協立病院)	29日	各部屋	雨のため地震のみの訓練を行なった。先ず、ホールで地震の際の身の守り方を伝えた。その後、各クラスで1分間安全な所に避難し身を守った。	園児 48名 職員 13名 計 61名	9月のシェイクアウト訓練に備え、地震の際の身の守り方について確認をした。事前に伝えてから訓練をしたことで、不安なく上手に1分間を待つことができた。	1	地震避難訓練 (予告なし)	20日	各クラス	クラス単位で予告なしの地震避難訓練を行った。ひまわりはホールで、その他は各クラスで保育中の訓練とした。	園児 63名 職員 18名 計 81名	クラス単位で行ったので、避難経路の確保の確認や、避難の状況を丁寧にみる事ができた。シェイクアウト訓練を体験しているの、静かに身を守ることができていた。以上児には、外で地震が発生した時の対応も伝えた。
8	火災避難訓練 消火訓練 ↓ 水害避難訓練	26日	2階中ホール	雨のため、水害避難訓練を行った。全園児、2階中ホールへ避難をした。大雨が続き、各地で被害が広がっており、子どもたちにとっても、水害の話は身近なものとなった。	園児 48名 職員 12名 計 62名	各地で避難生活をしている状況が報道されている時だったので、水害の時はみんなど2階で過ごす事を確認し、どんな備蓄品があるかを伝えた。狭い空間なので、避難後の過ごし方について部屋割りをしておく必要があると感じた。	2	地震・大津波 避難訓練	22日	治水公園 協立病院	シェイクアウト訓練の後、防寒対策を取り治水公園へ避難。年長のみ協立病院4階への避難訓練を行った。	園児 67名 職員 19名 計 86名	12月の反省を元に、3・4歳児は防寒対策ができたからホールの中で靴を履き、そのまま外に出たので、テラスでの避難は避けられた。職員同士の声かけも随機応答にできており日常の連携の大切さを感じた。
9	地震避難訓練 (シェイクアウト訓練)	26日	治水公園	シェイクアウト訓練が延期になったため、日時をずらした。火災報知機が変わったため、その音を聞いて、避難をする訓練を行った。	園児 46名 職員 12名 計 58名	火災報知機が新しくなり、今年度初めて音を鳴らすことができた。音を聞いて自分で行動をするということも、大きなクラスにとっては大切なことで、良い経験ができた。今後、火災訓練の際には、火災報知機を使っていくこととする。	3	大津波避難訓練 まとめ	18日	協立病院	合同訓練が延期になった為、職員のみで防災マニュアルの確認を行った。	職員 11名 計 11名	防災マニュアルをBH職員で読み、避難の際の確認を行った。特に、配慮が必要な子への対応や散歩中の避難について確認できた事は良かった。

治水どんぐりの家保育園 保育園の自己評価表

評価項目	内 容	自己評価・反省
保育課程	ア) 保育所の保育の方針や目標に基づき、子どもの発達を踏まえ、ねらい及び内容が保育所生活の全体を通して、総合的に展開されるようつくられているか。	年度初めに、保育園の役割・保育理念・保育で大切にしたい事等を職員で確認し、保育課程の検討をした。10月からの0歳児保育に向け、保育課程に加筆を行った。また、発達の特徴やねらいについても、各年齢ごとにまとめたものを確認し、関わり方で大切にしたい事等も話し合いながら進めている。
	イ) 地域の実態、子どもや家庭の状況、保育時間などを考慮し、子どもの育ちに関する長期的見通しを持って、適切に編成されているか。	
	ウ) 子どもの生活の連続性や発達の連続性に留意し、創意工夫して保育できるように編成されているか。	
指導計画	ア) 保育課程に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成して、保育が適切に展開されていたか。	保育課程は、年度初めに職員で確認し、実践に活かしていけるよう指導計画に反映させている。各年齢の発達の特徴をおさえ年間カリキュラムを立て、更に未満児は個人カリキュラムと2ヶ月ごとのカリキュラム、3歳以上児は2ヵ月ごとのカリキュラムを作成し、会議で検討・自己評価を行なっている。延長保育についても、配慮することをまとめ、安心して生活できるよう心がけている。しかし、現状にとどまらず、もう少し夕方に落ち着かなくなる子どもの気持ちの揺れを見つめて、環境を改善する必要があるのではないかと感じている。
	イ) 3歳未満児については、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成しているか。	
	ウ) 長時間にわたる保育については、心身の状態に十分配慮して、保育の内容や方法、職員の協力体制、家庭との連携等配慮し保育をしたか。	
子どもの健康支援	ア) 保健計画を作成し、職員が、一人ひとりの健康状態を適切に把握しているか。	年度初めに全園児の健康状態・アレルギーの有無を確認し、全職員に周知している。今年度はアレルギー除去食の園児はいなかった。歯科検診(年1回)園児健診(年2回)実施。当日欠席した園児については、後日園で受診し未受診はない。今年度は2月にノロウィルスの集団感染が起こってしまった。直ちに保健所に連絡、同時に感染症対策委員会を開き、感染源が特定されるまで給食の提供をやめ、代替食で対応した。嘱託医にも助言を受け、消毒を徹底し、感染源を検証し、2歳児の排泄後の替替え場所の見直しを行った。汚物処理の対応など保護者の協力もあり、下旬には終息した。インフルエンザは、流行には至らず、数名の発生で済んでいる。
	イ) 子どもの心身の健康状態や疾病等の把握のために、嘱託医等により定期的に健康診断を行い、その結果を記録しているか。	
	ウ) 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医やかかりつけ医と相談し、適切な処置を行っているか。	
	エ) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、協力を求めているか。	
食育	ア) 健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標としているか。	今年も5月に給食試食会を行い、保護者に保育園で大切にしている食について栄養士から伝えてもらった。給食のレシピなども掲示しており、保護者の食への関心は高まってきている。また、0歳児の保育開始に伴い、入園説明会で栄養士が離乳食の説明をし、面談しながら離乳食を進めた。食育活動では、年長児は食育ボードに取り組み、秋には栄養士の明日見先生による鮭の解体の体験をした。また、味噌づくりも恒例になり、卒園式にみんなで手づくり味噌の味を楽しむことが出来た。野菜作りは天候の状況が悪く、思うように収穫できなかったが、ご近所の方が、家庭菜園の野菜を収穫させてくれ、実りを楽しむ事ができた。
	イ) 子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食にかかわる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しんでいるか。	
	ウ) 乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われているか。	
	エ) 食物アレルギー、障害のある子どもなど、心身の状態に応じ、適切に対応しているか。	
小学校との連携	ア) 子どもに関する情報を共有にして、保育所に入所している子どもの就学に際し、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されているか。	保育要録の提出、全園児の口頭での引継ぎを行なった。また、特別支援が決まった園児については、小学校から園での様子を見学に来ていただき、丁寧な引継ぎを行う事ができた。
保護者に対する支援	ア) 子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉を重視しているか。	お便りや連絡ノート等でのやり取りや、日常的には会話を心掛け様子の伝え合いを大切にしている。また、必要に応じ、個別に保護者と担任・園長との面談の場を設け、共に子育てを考えていけるよう努め、要望があれば専門機関に繋いだ。また、保護者同士がつながれるよう、親の会作りをサポートし、どんぐりの会が発足した。保護者の熱意に支えられ、共に子どもたちに楽しい体験を、という視点で行事を作ることができた一年だった。
	イ) 保護者ととともに、子どもの成長の喜びを共有出来ているか。	
	ウ) 一人一人の保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮して、保護者の養育力の向上に資するよう適切に支援しているか。	
	エ) 子育て等に関する相談や、助言にあたっては、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を培っているか。	
	オ) 連絡ノートやおたより等で、子どもの状態を伝えているか。	
職員の資質の向上	ア) 子どもの保育及び保護者に対する保育の指導が適切に行われているように、保育所内外の研修を通じて、必要な知識及び技術の習得がなされているか。	外部からの講師(わらべうた・リズムとうた)を招いて、実践に学びながら保育理念と結んでいく機会を多くした。保育士がさせるのではなく、良い教材をどう手渡し、どう伝えていくのか、こどもが主体的に活動する為に、大人がどう関わるかを学ぶ事ができた。また、地域支援相談室の先生の園訪問からの学びも多く、悩みながらもみんなで助け合い成長できた年だった。職員通信を不定期で発行し、思いを伝え合えるように努めた。また、パート職員会議の時間を設け、保育の一致・意見の集約を図った。年度末には全職員との面談を行い、園運営についての意見を出してもらい、改善に努めている。
	イ) 職員一人一人が主体的に学ぶとともに、他の職員や地域の関係機関等、様々な人や場との関わりの中で共に学び合うことで、保育所の活性化を図っていったか。	
施設長の責務	ア) 保育所の役割や社会的責任を遂行するために、その専門性の向上に努めているか。	
	イ) 職員が、保育所の様々な課題について共通理解を深め、協力して改善に努めることが出来る体制を作っているか。	